

けやき



No. 632
2024. 9. 26

京大職組
文学部支部

新支部委員あいさつ 岩本 佳子

このたび、文学部支部の委員を務めることになりました岩本と申します。二〇二三年の春、コロナ禍による自粛生活がようやく終わりを迎えようとしていた時期に、西南アジア史学専修の教員として着任しました。

重要性を痛感しました。

京大に赴任するにあたり、大学や学部の環境についてはほとんど知識がないうまま、これまでいち「学生」や「卒業生」として過ごしてきましたことを反省しました。もっと大学や学部の内部の事情を理解しないといけないなと思ひ、また昼食会のメニューに釣られたこともあって、組合に加入しました。

こちらの赴任する前は、二〇二〇年から三年間、ちょうどコロナ禍真っ盛りの時期に長崎大学で勤務していました。長崎大学にいた頃は、組合には加盟していませんでしたが、その頃、トップダウン型のガバナンス改革の功罪を色々と考えさせられる出来事——前学長の名前で某動画サイトを検索して非常に気合いの入ったカラオケPV動画を見つけたことなど——があり、組合の必要性や

約一〇年ぶりに京都大学

そして文学研究科に戻ってきましたが、学内の雰囲気はやはり変わってしまったと感じました。大学を取り巻く環境が大きく、そして厳しく変わっているためでしょうか。もちろん時代にあわせて変わっていかねばならないし変えねばならないことが多々あることは理解できます。しかし、かつて京都大学が誇っていた学風は、かなり薄まってしまったように感じます。京大も含め、「お上」に対しては議論どころか請願すら受け付けてもらえず、一方的に門前払いされてしまうことが「常態化」する中、憲法で保障された数少ない団体交渉のチャンネルである組合はますます重要になっていると思います。こういった事態に、非力な己一人が何ができるのかという無念な思いもあります。こうした時代だからこそ、

組合の意義があるのだと考えております。

今後とも組合員の皆さまから多くのご教示をいただければ幸いです。どうぞ今後ともどうかよろしくお願ひ申し上げます。

研究科長・事務長への

ご挨拶

今年度、支部委員が一部交代したことをうけて、七月三〇日(火)の午後に出口研究科長、川畑事務長と懇談会を行いました。支部委員側からは、新支部長の伊原木、新支部委員の岩本の2名が参加しました。

最初に、あらためて支部委員全員を紹介するとともに、年明けに実施予定の懇談会への出席をお願いしました。

次に、これまでどおり組合との信頼関係に基づき、申し入れに応じて折衝・交渉等の場を設けていただくこと、組合との慣行事項等に変更があるときには事前ご連絡をさせていただくと、そして支部総会などの組合活動に際しては文学部内の会議室の利用をお認め

いただくことについて、合意の確認を取ることができました。

また、支部委員側からお尋ねした以下の点についても回答をいただきました。

- (1) 時間雇用職員の時給アップについて。昨今の社会状況にあわせて給与改定を実施した結果、文学研究科事務室に所属の通算契約期間が5年を超えて無期転換の権利が発生している時間雇用職員を対象に一〇〇円から五〇〇円のアップが実施された、との説明がありました。なお、専修所属の事務補佐員については各専修経費で雇用されているため、関知していないとのことです。
- (2) 旧支部ボックスの利用可否について。いまだ解体の目的が立っていないものの、東館は施設部が管理しており、文学研究科で自由に利用できる状況にはないようです。その代わりにスペースとして、研究科長と事務長から、文系学部校舎に設置された「ぶんこも」を積極的に活用してはどうかとの提案がありました。
- (3) 男女共同参画推進委員会の構成について。男女共同参画推進は本学策定のアクションプランに基づく重要なミッションであるため、運営委員会を中心に研究科全体で取り組むことになってはいるが、より自由な議論ができる場として懇談会の開催を予定しており、そこで出される意見を汲み上げたことの話でした。

2024 年度支部委員会

伊原木大祐 (支部長) 岩本佳子*
岸 政彦* 杉江あい 谷川穰
丸山里美*

* 支部規約の改正にもとづき 3 名の委員が加わりました。新委員の任期は 2 年です。